

電気情報工学コース

1. 学習・教育目標

電気情報工学コースは以下に示す学習・教育目標を定めており、この目標達成に向けて次ページに示す科目の段階的な流れが設計されています。各科目の履修においては下記目標を十分認識の上、講義や実験などに出席してください。

(A) 広い視野と技術者としての倫理観 【倫理】

人類、世界、文化に広く関心を持ち、視野の広い技術者になる。技術の産物が社会や自然に及ぼす影響を判断できる力と責任感、倫理観を養う。

(A-1) 【倫理観】 倫理観を育て社会貢献の意義を理解・表現できる。

(A-2) 【広い視野】 國際的觀点から多面的な意見を述べられる。

(A-3) 【技術者倫理】 技術の発展の功罪、技術者の責任を述べられる。

(B) 科学技術の基礎知識と応用力 【知識】

自然科学と専門技術の基礎を確実に身につけ、それを具体的に問題に応用できる力を身につける。

(B-1) 【基礎知識】 自然科学の学理を身に付け活用できる。

(B-2) 【専門基礎知識】 専門基礎工学を身に付け応用できる。

(B-3) 【課題追及解決力】 専門工学を本質的に理解し課題を解決できる。

(B-4) 【分析・応用力】 実験を計画的に遂行し得られた知見を説明できる。

(C) 課題解決の実行力と豊かな創造力 【実行力】

自ら課題を発見して、自主的に取り組み解決する姿勢と能力を身につける。互いに協力して課題に取り組める技術者、創造力豊かな技術者になる。

(C-1) 【継続的学習能力】 技術的興味を高め生涯学習の目標を説明できる。

(C-2) 【課題設定能力】 的確な問題提起を行い計画的に実行できる。

(C-3) 【デザイン能力】 チームワーク力、分析力等の下に問題解決ができる。

(C-4) 【探究・実行力】 論理的思考、創意工夫の下に主体的な研究を進めることができる。

(D) 論理的なコミュニケーション能力 【コミュニケーション】

物事を論理的に考えて、それを文章と口頭で明確に表現できる力を身につける。英語による基本的な記述、表現が行える語学力を身につける。

(D-1) 【論理的表現能力】 学理に基づいて論理的な記述・表現ができる。

(D-2) 【コミュニケーション能力】 適切な資料の作成と説明、論文執筆が行える。

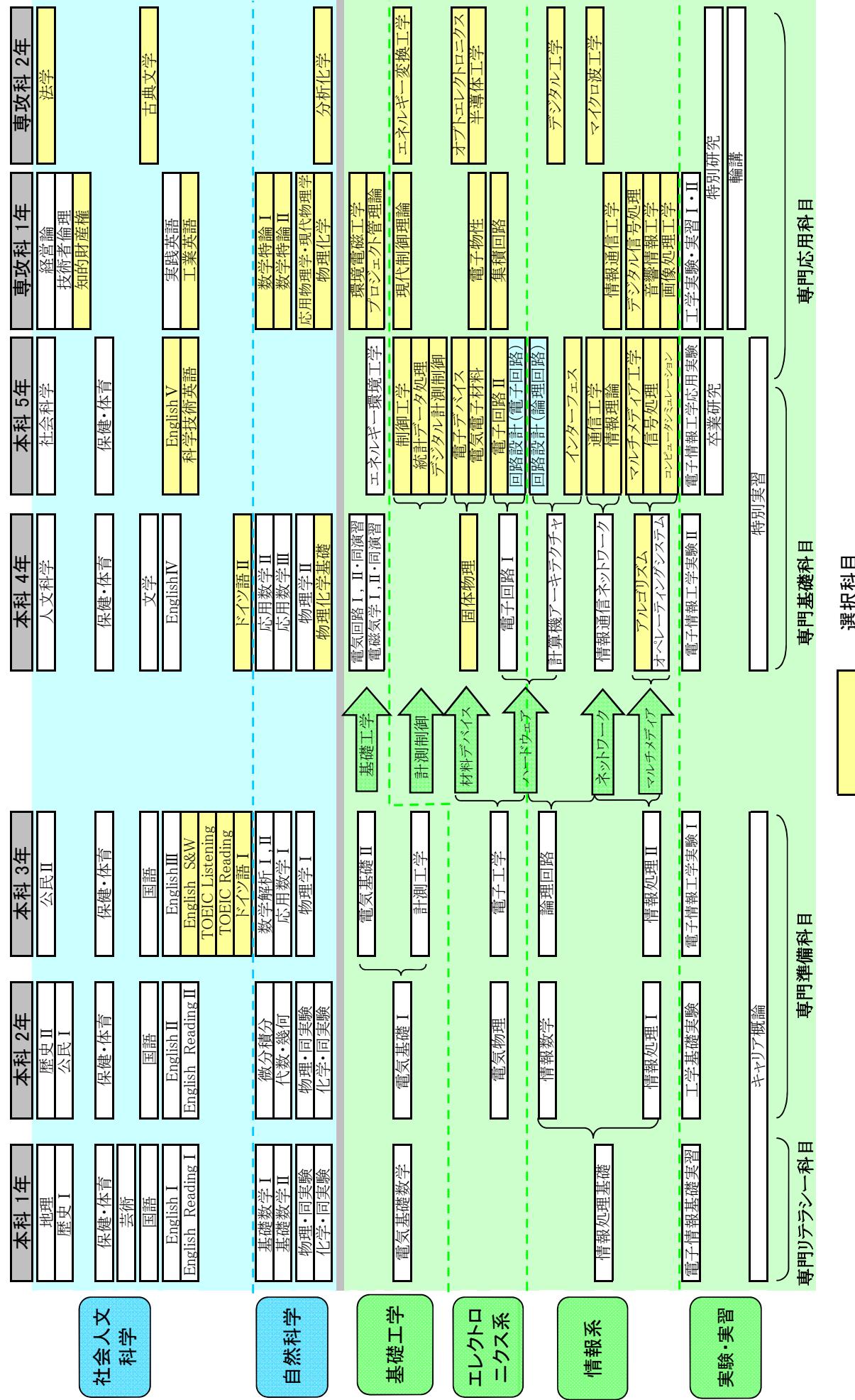
2. 電気情報工学コースの修了要件

コース修了は学習・教育目標の達成を認められることにより与えられます。開講科目、単位数、および学習時間を十分確認し、下記に示した5つの要件を全て満たすように履修計画を立ててください。なお、本科の科目はC以上の評定を得たものだけを修得科目とします。

- (1) 履修要領にある専攻科修了に必要な授業区分別修得単位の条件を満たしていること。
- (2) 本科と専攻科のコース必修科目の単位を全て取得すること。本科において未修得のコース必修科目がある場合は、電気情報コース履修規定に従って、その単位を取得する必要があります。
- (3) 専攻科開講科目のうちコース選択必修科目と必修科目を合計して62単位以上取得し、さらに本科開講分を合わせて124単位以上取得すること。ただし、「電気情報工学コース科目分類表」の下方に記載されている条件を満たすように取得することが必要です。
- (4) 修得科目の授業時間数が、人文社会・社会学科等の科目で250時間以上、数学・自然科学・情報技術で250時間以上、専門科目で900時間以上であること。
- (5) 大学評価・学位授与機構より学士（工学）の学位を授与されること。

3. 科目系統圖

平成25年度 専攻科1年生用



4. 学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ (平成25年度、専攻科1年生用)

学習・ 教育目標	授業科目名							
	プログラム1年 前期		プログラム2年 前期		プログラム3年 前期		プログラム4年 前期	
(A-1)	▲人文科学 I (人文地理学) ▲人文科学 II (教育学) ▲人文科学 III (哲学) ○文学 ○保健体育		▲社会科学 I (法学) ▲社会科学 II (経済学) ▲社会科学 III (社会学) ○保健体育		◎経営論 ◎技術者論理 ◎卒業研究		◎特別研究	
(A-2)	▲人文科学 I (人文地理学) ▲人文科学 II (教育学) ▲人文科学 III (哲学) ◎English IV ドイツ語 II		▲社会科学 I (法学) ▲社会科学 II (経済学) ▲社会科学 III (社会学)		◎経営論 ◎輪講		△法学 △古典文学	
(A-3)	▲人文科学 I (人文地理学) ▲人文科学 II (教育学) ▲人文科学 III (哲学)		▲社会科学 I (法学) ▲社会科学 II (経済学) ▲社会科学 III (社会学)		◎エネルギー環境工学 ◎回路設計		◎技術者論理 △知的財産権	
(B-1)	◎応用数学 II ◎電磁気学 I・同演習 ○物理学 II		◎応用数学 III 物理化学基礎 アルゴリズム ○オペレーティングシステム ○計算機アーキテクチャ		統計データ処理 信号処理 マルチメディア工学		◎数学特論 I △デジタル信号処理 △画像処理工学	
(B-2)	◎電気回路 I・同演習 ◎電磁気学 I・同演習 アルゴリズム 固体物理		◎電気回路 II・同演習 ◎電磁気学 II・同演習 ○電子回路 I ○情報通信ネットワー ○オペレーティングシステム ○計算機アーキテクチャ		コンピュータシミュレーション 電子デバイス 電子回路 II マルチメディア工学 信号処理		電気電子材料 通信工学 制御工学 デジタル計測制御 情報理論	
(B-3)			電子デバイス 電子回路 II 信号処理		コンピュータシミュレーション インターフェース		△集積回路 △現代制御理論 △情報通信工学 △ディジタル信号処理 △画像処理工学	
(B-4)			◎電子情報工学実験 II ◎回路設計		◎電子情報工学応用実験 ◎特別実習		◎工学実験実習 I ◎工学実験実習 II	
(C-1)			◎卒業研究 ◎特別実習		◎特別研究 ◎輪講		◎特別研究 ◎輪講	
(C-2)			◎電子情報工学実験 II ◎特別実習 校外実習		◎電子情報工学応用実験 ◎特別実習 インターンシップ		◎工学実験・実習 I ◎工学実験・実習 II	
(C-3)			◎電子情報工学応用実験 ◎回路設計				◎工学実験・実習 II	
(C-4)			◎卒業研究		◎特別研究		◎特別研究	
(D-1)			◎電子情報工学実験 II ◎回路設計 校外実習		◎電子情報工学応用実験 ◎特別実習 インターンシップ		◎工学実験・実習 I ◎工学実験・実習 II	
(D-2)	◎English IV ドイツ語 II		◎卒業研究 科学技術英語 English V		◎特別研究 ◎輪講 ◎実践英語		◎特別研究 ◎輪講 △工業英語	

◎:コース必修科目、○:必履修科目、▲:選択必修科目、△:選択科目

5. 電気情報工学コース科目分類表

平成25年度 5年生, 専攻科生用

	本科修得分			専攻科修得分			コース修了条件	
	コース指定授業科目	単位数	必修選択分類	コース指定授業科目	単位数	必修選択分類	授業時間数	修得単位数
社会人文社会科学等・学会等	文学	2		経営論	2	◎	250	
	English IV	3	◎	法学	2	●		
	人文科学*	2	◎	実践英語	2	◎		
	社会科学*	2	◎	古典文学	2	●		
	ドイツ語 II	2		技術者倫理	2	◎		
	English V	2		知的財産権	2	●		
	保健・体育	2		工業英語	2	●		
	保健・体育	2						
数学・科学・自然	海外英語演習	1						
	応用数学 II(4年)	2	◎	数学特論 I	2	◎	250	
	応用数学 III(4年)	2	◎	現代物理学	2	●		
	物理学 II(4年)	2		物理化学	2	●		
	物理化学基礎	2		分析化学	2	●		
	環境化学(4年)							
情報技術	固体物理(4年)	2						
	アルゴリズム(4年)	2		音響情報工学	2	○	250	
	オペレーティングシステム(4年)	2		画像処理工学	2	○		
	信号処理	2		デジタル信号処理	2	○		
	情報理論	2						
	マルチメディア工学	2						
専門科目	計算機アーキテクチャ	2						
	科学技術英語	2		特別研究	16	◎	124	900
	エネルギー環境工学	2	◎	工学実験実習 I	2	◎		
	電磁気学 I・同演習(4年)	3	◎	工学実験実習 II	2	◎		
	電磁気学 II・同演習(4年)	3	◎	輪講	4	◎		
	電気回路 I・同演習(4年)	3	◎	通信システム工学	2	○		
	電気回路 II・同演習(4年)	3	◎	情報通信工学	2	○		
	電子デバイス	2		デジタル工学	2	○		
	制御工学	2		電子物性	2	○		
	電子回路 I (4年)	4		オプトエレクトロニクス	2	○		
	通信工学	2		半導体工学	2	○		
	デジタル計測制御	2		プロジェクト管理論	2	○		
	情報通信ネットワーク(4年)	2		集積回路	2	○		
	回路設計	2	◎	マイクロ波工学	2	○		
	電子情報工学実験 II(4年)	3	◎	環境電磁工学	2	○		
	電子情報工学応用実験	3	◎	現代制御理論	2	○		
	卒業研究	6	◎	エネルギー変換工学	2	○		
	電気電子材料	2		インターナシップ I	1			
	電子回路 II	2		インターナシップ II	2			
	インターフェース	2		インターナシップ III	4			
	コンピュータシミュレーション	2		インターナシップ IV	6			
	特別実習	1	◎					
	校外実習	1						

- 必修・選択分類中の◎は電気情報工学コース必修単位を表す。
- 人文科学は人文科学 I, II, IIIから1科目を、社会科学は社会科学 I, II, IIIから1科目を修得する。
- 必修・選択分類中の●は人文社会・社会科学等及び数学・自然科学におけるプログラム指定の選択必修科目を表し、●がついた科目群から8単位以上修得する必要がある。
- 必修・選択分類中の○は情報技術・専門科目におけるプログラム指定の選択必修科目を表し、○がついた科目群から22単位以上修得する必要がある。

科目名	古典文学 Classical Literature		担当教員	長谷川隆 坂本具償					
学年	A S 2	学期	後期	科目番号	13161004	単位数 2			
分野	教養	授業形式	講義	履修条件	コース選択必修				
学習目標	目標区分 (A-2)：広い視野一国際的観点から多面的な意見を述べられる。 1. 古文を読み味わい、日本人の発想の仕方や、背景の日本文化を理解する。また、自分の考えを文章にまとめたり、口頭で発表したりすることができる。 2. 古来親しまれてきた漢文の読解を通して、人としてのありようを考える。また、その考えをより的確に文章にまとめることができる。 3. 必要なことを辞書や参考文献等で調べ、発表することができる。								
進め方	プリント資料に基づいた講義を中心とするが、意見を書いたり発表したりしてもらうこともある。 予習・復習に努めてほしい。								
学習内容	学習項目 (時間数)			合格判定水準					
	※全体ガイドス(1) 1. 日本の古典（長谷川）(15) (1) 平家物語 ア. 平家物語概説 イ. 那須与一 ウ. 清盛 エ. 祇王 オ. 宗盛と知盛 2. 中国の古典（坂本）(14) (1) 『孟子』抜粋 (2) 『荀子』抜粋			・「平家物語」の特徴について説明できる。古文を読み、基本的な古語を理解し、内容をつかむことができる。人間と運命との関わりについて自分の意見を文章でまとめたり、口頭で発表したりすることができる。 ・漢字一字一字の意味を確認しながら訓読し、各文・各節の論旨を理解することができる。また、その論旨を踏まえて自分の意見をまとめたり、発表したりすることができる。					
評価方法	1. 評価の内訳は、提出物等を 20%、定期試験を 80%とする。 2. 評点は、学習内容の 1・2 をそれぞれ 50%、50% としてつける。 3. 授業に対する取り組みが悪い者については減点することがある。								
関連科目	国語（1年）→ 国語（2年）→ 国語（3年）→ 文学（4年）→ 古典文学（専攻科2年）								
教材	教科書：プリント 参考書：新日本古典文学大系（岩波書店）、新釈漢文大系（明治書院）他 辞書：国語辞典 古語辞典 漢和辞典								
備考	特になし								

科目名	物理化学 Physical Chemistry			担当教員	三浦 嘉也 (窓口教員:岡野 寛)						
学年	A S 1	学期	後期	科目番号	13162008	単位数 2					
分野	工学基礎	授業形式	講義	履修条件	コース選択必修						
学習目標	目標区分 (B-1) : 基礎知識—自然科学の学理を身に付け活用できる。 物理化学の内、気体運動論・熱力学・相平衡・エクセルギーについて基礎から学習する。科学的思考を理解し適用例を具体的にケーススタディすることによって使える熱力学を目指す。										
進め方	種々の概念・理論を簡潔に説明すると同時に関連する精選した問題を解説する。										
学習内容	学習項目 (時間数)			合格判定水準							
	1. 热力学の基礎(7) (1) 気体の性質および分子の持つエネルギー (2) 热力学第一法則 (3) 热力学第二法則			1. 热力学の第一法則と第二法則、エントロピーについて学習し热力学の重要性を理解する。							
	2. 自由エネルギーと相平衡(6) (1) Gibbs の自由エネルギー (2) 純物質の相の安定性 (3) 蒸気圧の温度依存性 (4) 純物質の相転移			2. 自然に起こる変化の方向を予測できる。自由エネルギーを用いて物質変化や化学平衡を説明できる。							
	3. 化学平衡(4) (1) 化学ポテンシャルと Gibbs エネルギー (2) 平衡定数と Gibbs エネルギー・温度の関係 (3) 自発変化の方向性			3. 化学平衡を実例に沿って議論できる。化学ポテンシャルが説明できる。平衡定数と Gibbs エネルギーの関係が説明できる。							
	4. 相律と状態図(4) (1) 相律とは (2) 二成分系平衡状態図 (3) 三成分系平衡状態図			4. 相転移が説明できる。 種々の二成分状態図が読み変化を説明できる。 平衡状態図から相変化を定量的に説明できる。							
	5. 热力学と分子論(4) (1) Boltzmann 分布 (2) エントロピーの分子論的解釈 (3) 分配関数			5. 分配関数が説明できる。 Boltzmann 分布が理解できる。エントロピーを分子論的に解釈できる。							
	6. エクセルギーと資源・環境(5) (1) Carnot 循環とその運転 (2) Carnot 機関の効率と化学電池の効率の対比 (3) 逆 Carnot 循環と熱ポンプ (4) エクセルギーと Gibbs 自由エネルギー (5) 化学エクセルギーの基本概念 (6) 製造プロセスにおけるエクセルギー収支解析事例			6. エクセルギーの概念が説明できる。エクセルギーと Gibbs 自由エネルギーの関連性・相違点が説明できるとともに、Carnot 循環・無効エネルギーについて具体的かつ深く理解できる。							
	期末試験(2)										
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 評価の内訳は、小テストやレポートへの取り組みを 20%、定期試験を 80% として評価する。 各学習項目の評価比重は、学習内容の時間数の比率で評価する。 										
関連科目	物質・材料等を扱う専門科目										
教材	教科書: 物理化学 II (熱力学・速度論)(第2版)(池上・岩泉・手老共著) (丸善), 参考書: エクセルギーの基礎(唐木田健一著)(オーム社)										
備考	教科書の補足資料や予備知識を収録したプリントを適宜配布する。										

科 目 名	工学実験・実習 I (電気情報工学コース) Experiment and Practice I			担当教員	原園正博、重田和弘、漆原史朗、 太良尾 浩生、村上幸一、柿元 健					
学 年	A S 1	学 期	前期	科目番号	13163001	単位数 2				
分 野	専門	授業形式	実験、実習	履修条件	コース必修					
目標区分 (B-4) : 分析・応用力－実験を計画的に遂行し得られた知見を説明できる。 (C-2) : 課題設定能力－的確な問題提起を行い計画的に実行できる。 (D-1) : 論理的表現能力－学理に基づいて論理的な記述・表現ができる。										
学習目標	実験を通して電気電子・情報工学の知識を深め、各種機器類の操作について習熟するとともに実験結果を正確に分析し、工学理論に基づいて考察する能力を習得する。また、実験結果を正当に得るために自らが各段階で行うべき判断力と実行力を身につける。さらに、専門用語を用い、かつ構成が考えられた技術レポートを作成し、実験内容と結論を十分伝えられるコミュニケーション能力を養う。									
進 め 方	以下に示す4テーマの実験を、4~5名のグループで実施する。担当する教員と技術職員のアドバイスの下で、指導書に従って学生が主体的に実験を行う。実験結果は、詳細に分析・検討し、十分な考察を通して技術レポートを作成・提出する。									
学習内容	実験テーマ (担当 : 時間)			合格判定水準						
	0. ガイダンス(1) 1. LEGO Mindstorms を用いたロボット競技の立案 (漆原、太良尾 : 36) 2. ディジタルフィルタの設計 (原園 : 18) 3. ネットワークの設計と構築 (重田、村上 : 18) 4. 組み込みソフトウェアのレビュー (柿元 : 18)			B-4:	・指導書と各自の調査により実験の目的と方法を理解できる ・専門応用理論に基づいた分析ができる ・自ら実験装置を構成でき、適切に操作できる					
評価方法	C-2: ・実験遂行に必要な情報を自ら収集できる ・その情報を実験に活用できる									
	D-1: ・専門用語を適切に用いて技術レポートを作成できる ・説明の順序が適正である									
教 材	この科目により該当する学習・教育目標の最終段階の到達度評価を行う。各実験の指導教員は、テーマの内容に応じて(B-4)、(C-2)、(C-3)、(D-1) の各目標の重み配分を決め、報告書によりそれぞれの評価を個別に行う。各目標に対する評価を全てのテーマで集計し、目標毎の評価点を算出する。単位認定はこの4つの目標が全て合格していることを条件とする。									
関連科目	{電子情報工学実験II} → [工学実験・実習I] → 工学実験・実習II, 特別研究									
備 考	本実験の報告書では、課題解決で取り上げた理論などの技術的記述と個人で活動した内容の2種類の項目を分かりやすく記載すること									

科 目 名	工学実験・実習Ⅱ（電気情報工学コース） Experiment and Practice II			担当教員	本田道隆、鹿間 共一、 中山仁史、辻 正敏		
学 年	A S 1	学 期	後期	科目番号	13163002 単位数 2		
分 野	専門	授業形式	実験、実習	履修条件	コース必修		
学習目標	目標区分 (B-4) : 分析・応用力－実験を計画的に遂行し得られた知見を説明できる。 (C-2) : 課題設定能力－的確な問題提起を行い計画的に実行できる。 (C-3) : デザイン能力－チームワーク力、分析力等の下に問題解決ができる。 (D-1) : 論理的表現能力－学理に基づいて論理的な記述・表現ができる。						
進 め 方	与えられた PBL 課題を分析し、ブレークダウンして具体的な要素課題を導き、チーム全体の実験計画と各個人の具体的行動計画を討議により策定してチーム全体で課題解決に導く手法を実践的に習得する。この全体の過程で必要な工学技術の調査や文献調査を自ら行い、専門工学の知識の応用力を高めることも知識面での目標である。また、課題解決に導いた一連の過程の流れと得られた成果を工学知識を有する第三者に適正に伝えるコミュニケーション能力を養うことも含まれる。						
学習内容	実験テーマ（担当：時間） 0. ガイダンス(1) 1. オーディオアンプの製作（辻：24） 2. 組込み技術応用課題（鹿間、中山：42） 3. オリジナルパズルの制作（本田：24）			合格判定水準 (B-4) • 参考資料等の文献により実験目的と方法を正しく理解し説明できる。 • 専門工学を駆使して、自ら解決策を考案できる。 • 実験手順やシステムをチームで考案し、適切に遂行できる。 (C-2) • 課題を分析し、実験計画を立てることができる。 (C-3) • チーム討議に積極的に参加できる。 • 課題を具体化した個々の要素について十分討議し、課題を解決できる。 (D-1) • テーマに沿った技術レポートを工夫し、得られた知見を正確に記述することができる • 説明の順序が適正であること。			
評価方法	この科目により該当する学習・教育目標の最終段階の到達度評価を行う。 各実験の指導教員は、テーマの内容に応じて(B-4)、(C-2)、(C-3)、(D-1) の各目標の重み配分を決め、報告書によりそれぞれの評価を個別に行う。各目標に対する評価を全てのテーマで集計し、目標毎の評価点を算出する。単位認定はこの4つの目標が全て合格していることを条件とする。						
教 材	各教員の指示による。						
関連科目	[工学実験・実習Ⅰ] → 工学実験・実習Ⅱ（専攻科1年）、特別研究（専攻科1、2年）						
備 考	本実験の報告書は課題解決で取り上げた理論などの技術的記述、チームで活動した内容、個人で活動した内容の3種類の項目を分かりやすく記載すること						

科 目 名	インターンシップ I, II, III, IV Internships			担当教員	創造工学専攻長												
学 年	AS1, AS2	学 期	通年	科目番号	12163006~9	単位数	1, 2, 4, 6										
分 野	専門	授業形式	実習	履修条件	選択												
学習目標							目標区分 (C-2) : 課題設定能力ー的確な問題提起を行い計画的に実行できる。 (D-1) : 論理的表現能力ー学理に基づいて論理的な記述・表現ができる。										
							実社会において、将来のキャリアに関連した就業体験を得ることにより、技術者としての心構え、考え方、行動のあり方などを学び、学内における勉学・研究活動や将来の進路選択・就業に活かすことを目的とする。										
進め方							民間企業、官公庁、あるいは大学の研究室などの実習先を決定した上で、夏季休業中やその他の時間を利用し、1週間以上の期間にわたり実習を行う。期間に応じて次の4種とする。 (1) インターンシップ I (45時間以上; 1単位) (2) インターンシップ II (90時間以上; 2単位) (3) インターンシップ III (180時間以上; 4単位) (4) インターンシップ IV (270時間以上; 6単位) 時期は在学中の2年間とし、学年、学期は限定せず、連続した日程でなくても、また年度をまたがつても可とする。計画時（または完了時）の合計時間数に応じてインターンシップ I, II, IIIまたはIVとする。										
学習内容	学習項目 (時間数)			合格判定水準													
	実習受け入れ先の実習教育担当者の計画・指導に従う。			<ul style="list-style-type: none"> ・設定された実習内容を理解し、具体的かつ明確に内容を説明できる。(D-1) ・与えられた任務に対し責任を持って遂行できる。(C-2) 													
評価方法		実習報告書および実習報告会の結果をもとに各コースの複数の教員が評価する。															
関連科目																	
教 材																	
備 考		上の進め方で、1時間は50分と計算する。そのため、企業等からのインターンシップ証明書の実働時間×(60/50)≥45ならインターンシップ I に必要な実働時間として認定可能となる。 例えば、1日8時間で5日間の場合、実働40×(60/50)=48≥45であり、インターンシップ I に必要な時間を満たしている。同様にインターンシップ IIなら、実働時間×(60/50) ≥90と計算する。															

科 目 名	情報通信工学 Information and communication Engineering			担当教員	重田 和弘						
学 年	A S 1	学 期	前期	科目番号	13163017	単位数 2					
分 野	専門	授業形式	講義	履修条件	コース選択必修						
学習目標	<p>目標区分 (B-3) : 課題追求解決力－専門工学を本質的に理解し課題を解決できる。</p> <p>情報通信システムに関する主要な技術とそれを理解するために必要となる理論を習得することを目標とする。代表的な通信サービスの概要を理解し、主要なネットワーク技術についてその原理を理解し説明できる。</p>										
進 め 方	座学を中心に、一部 e-learning 教材を併用して講義を進める。適宜、e-learning による小テストを実施する。										
学習内容	学習項目 (時間数)			合格判定水準							
	0. ガイダンス(1) 1. ネットワーク技術の概要(3) 2. ネットワーク技術 の基礎(10) (1)デジタル交換技術 アナログ電話交換、デジタル電話交換 デジタル回線交換、パケット交換 (2)通信プロトコル OSI 参照モデル 各種通信プロトコル (3)ローカルエリアネットワーク 有線 LAN 無線 LAN (4)TCP/IP IP アドレスの体系 IPv6 (5)モバイル通信 携帯電話システム			<ul style="list-style-type: none"> ・情報通信システムの構成を理解し、その技術概要を説明できる。 ・デジタル伝送・交換技術について説明できる。 ・OSI 参照モデルの意義と概要を説明できる。 ・LAN の代表的なプロトコル、技術を説明できる。 ・TCP/IP に関する技術を説明できる。 ・モバイル通信技術の概要を説明できる。 							
	3. ネットワーク技術 (16) (1)ルーティング技術 電話網のルーティング インターネットのルーティング (2)ネットワークセキュリティ 暗号方式と認証方式 ファイアウォール (3)ネットワークの信頼性 信頼性の概念 装置の信頼性 (4)通信ネットワーク設計 待ち行列理論の基礎			<ul style="list-style-type: none"> ・代表的なルーティングプロトコルについて説明できる。 ・ネットワークのセキュリティに必要な対策とその技術の概略が説明できる。 ・簡単なネットワークの信頼性を評価できる。 ・待ち行列、トラヒック量、呼量について理解しその概要を説明できる。 							
評価方法	期末試験 試験返却・解説										
	評価の内訳は、定期試験の成績を 85%、e-learning システム上で実施する小テストの成績を 15%とする。										
関連科目	{情報通信ネットワーク} (4年) → {情報理論} {通信工学} (5年) → [情報通信工学]										
教 材	教科書：ネットワーク技術の基礎、宮保憲治、他、森北出版 参考書：情報通信ネクストワーク、遠藤靖典、コロナ版										
備 考	電気情報工学科4年の「情報通信ネットワーク」を習得済みであることを前提に講義を行う。										

科 目 名	オプトエレクトロニクス Optical Electronics		担当教員	森本 敏文							
学 年	A S 2	学 期	前期	科目番号	13163025	単位数					
分 野	専門	授業形式	講義	履修条件	コース選択必修						
学習目標	目標区分 (B-2) : 専門基礎知識一専門基礎工学を身に付け応用できる。 オプトエレクトロニクスは、光学（オプティックス）と電子工学（エレクトロニクス）を融合した新しい工学技術であり、双方の特徴を効果的かつ相乗的に発揮できる複合技術として、通信、計測、制御、情報処理などの広い分野に活用されている。本講義は、この分野で利用される基本素子について理解を深め、実際的な応用への基礎となる知識を習得することを目標とする。										
進 め 方	教科書に沿って基礎的な項目について講義する。理解度および学習状況を確認するためにレポート・ノートの提出を求める。										
学習内容	学習項目 (時間数)			合格判定水準							
	0. ガイダンス (1) 1. 光の性質 (4) (1) 干渉とコヒーレンス (2) 自然光とレーザ光 2. 光波の伝送 (6) (1) 各種伝送路 (2) 光ファイバ 3. 発光素子 (4) (1) 固体レーザ (2) ガスレーザ (3) LED 4. 半導体レーザ (4) (1) 光の吸収と放出 (2) 反転分布 (3) 光の增幅 5. 受光素子 (6) (1) 光の検出 (2) 光電効果 6. 光を応用した技術 (5) (1) レーザ応用分野 (2) 光計測			・光の波動現象及び光の伝搬とエネルギーの関係を定量的に理解することができる。 ・光のコヒーレンス特性を理解し、光・電磁波に関する量子現象に関して説明することができる。 ・光波伝送方式の概要を理解し、説明できる。 ・各種発光素子の基本的特性を理解し、説明できる。 ・各種受光素子の基本的特性を理解し、説明できる。 ・光を応用した技術の基本機構を理解し、説明できる。							
評価方法	定期試験 80%， レポート・ノート 20%で評価する。										
	{電子工学} (3年) → {固体物理} (4年) → {電子デバイス} (5年) → 半導体工学, [オプトエレクトロニクス] (専攻科 2年)										
教 材	教科書：「光エレクトロニクス入門 (改訂版)」，西原 浩・裏 升吾，コロナ社										
備 考											

科 目 名	マイクロ波工学 Microwave Engineering			担当教員	辻 正敏						
学 年	A S 2	学 期	前期	科目番号	13163028	単位数 2					
分 野	専門	授業形式	講義、演習	履修条件	コース選択必修						
学習目標	目標区分 (B-3) : 課題追求解決力—専門工学を本質的に理解し課題を解決できる。 本科で学んだ電気回路の知識を基に、マイクロ波で用いられる分布定数回路に対する解析手法を S パラメータとスミスチャートを用いて学ぶ。また、演習を行うことによりマイクロ波回路の解析や簡単な回路設計ができる能力を身に付ける。										
進 め 方	配布したプリントの内容を中心とした講義が中心となる。										
学習内容	学習項目 (時間数)			合格判定水準							
	0. ガイダンス (1) 1. 整合回路 (4) (1) トランスを用いた整合 (2) L 形、逆 L 形整合回路 2. スミスチャート (5) (1) スミスチャートの使い方 (2) アドミッタンスチャート (3) イミッタンスチャート 3. 伝送線路 (5) (1) 特性インピーダンス (2) 反射係数 (3) 伝送線路から見たインピーダンス			・整合回路を理解し、トランス整合、L 形整合、逆 L 形整合回路を設計できる。 ・スミスチャート、アドミッタンスチャートの使い方を理解し、S パラメータをチャート上に表示できる ・イミッタンスチャートを用いて整合回路を設計できる ・特性インピーダンスの意味を説明できる。 ・伝送線路の進行波と反射波について説明できる							
	[前期中間試験] (2) 試験返却 (1)										
	4. 分布定数回路 (7) (1) 集中定数の高周波特性 (2) 伝送線路を用いた素子 (3) 伝送線路を用いた整合回路 5. S パラメータ (5) (1) S11、S22 (2) S21、S12 (3) ハンジスタの整合			・集中定数の高周波特性を説明できる ・分布定数回路を用いて整合回路を設計できる ・S パラメータを理解し、簡単なトランジスタ回路の整合回路を設計できる。							
	前期期末試験 試験返却 (1)										
評価方法	・定期試験（前期中間、前期末試験）、課題レポート・小テスト（20%程度）により評価する。										
関連科目	電気回路 I, 電気回路 II (4年) →通信工学 (5年) →マイクロ波工学 (専攻科 2年)										
教 材	プリントを配布、参考書：マイクロウェーブ技術入門講座（森 栄治、CQ 出版）、スミス・チャート実践活用ガイド（大井克己、CQ 出版）、マイクロ波電子回路（谷口 慶治、共立出版）										
備 考											

